

【 歴史&宗教 No005 】 神仏同座、大好きな視点

今に残る・今世に生きる神仏混淆とその果たす社会的役割を考察する。

「神仏同座・神仏混淆・神仏習合」に拘る理由は、多様性尊重社会と対等互啓（恵）精神の醸成、啓発に一翼を担いたいという思いがあるからである。多様性社会うんぬんと神仏が関係することについては腑に落ちないという点もあろうが、「混淆・習合」（ごちゃまぜ）が肝である。

「生臭坊主やイカサマ神主やデグスケ牧師にゴロツキ祈祷師」と揶揄しているものの、このような真摯な取組みに接すると嬉しくなる。

【 目 次 】

	図(表)番号	頁
【 歴史&宗教 No005-1 】 [神仏同座] 今世に歓迎する神仏習合	1～2	1～4
【 歴史&宗教 No005-2 】 [神仏同座] 全国大	3～19	5～18
【 歴史&宗教 No005-3 】 [神仏同座] 山形県内	20～29	19～27
【 歴史&宗教 No005-4 】 [神仏同座] 異なる宗教団体の連携	30～36	28～32
【 歴史&宗教 No005-5 】 [神仏同座] 民間にみる進取の宗教者	37～44	33～39
【 歴史&宗教 No005-6 】 [神仏同座] 子供達の神仏に向き合う感性	45～46	40～41
【 歴史&宗教 No005-7 】 [神仏同座] 身近な神仏霊場	47～49	42～45